経営比較分析表（令和6年度決算）

熊本県　和水町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	80.15	18.13	100.00	4,400

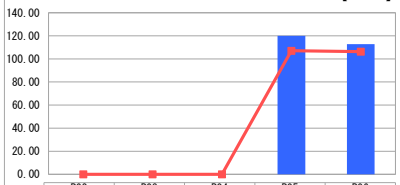
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
9,007	98.78	91.18
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
1,622	0.65	2,495.38

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

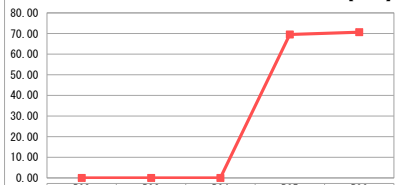
【105.07】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	120.06	112.74
平均値	-	-	-	107.11	106.38

②累積欠損金比率(%)

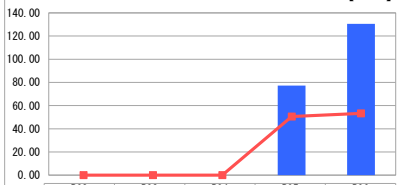
【63.54】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	0.00	0.00
平均値	-	-	-	69.54	70.63

③流動比率(%)

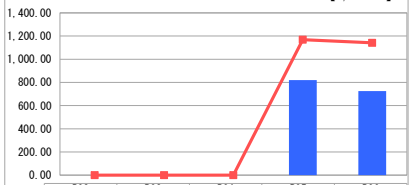
【50.90】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	77.23	130.53
平均値	-	-	-	50.63	53.28

④企業債残高対事業規模比率(%)

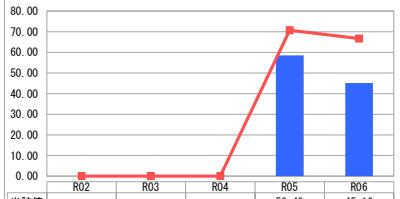
【1,099.15】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	820.75	724.69
平均値	-	-	-	1,168.69	1,142.44

⑤経費回収率(%)

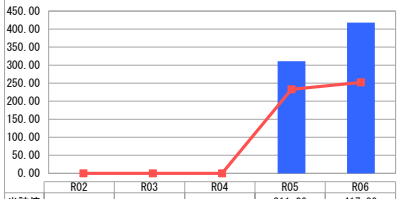
【72.92】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	58.49	45.16
平均値	-	-	-	70.71	66.63

⑥汚水処理原価(円)

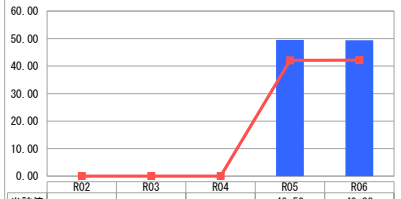
【225.78】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	311.09	417.89
平均値	-	-	-	233.15	252.17

⑦施設利用率(%)

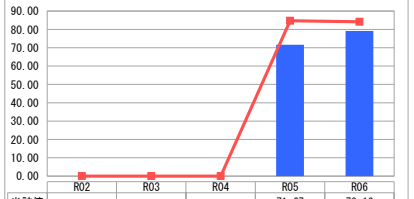
【43.17】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	49.50	49.38
平均値	-	-	-	42.09	42.15

⑧水洗化率(%)

【86.31】

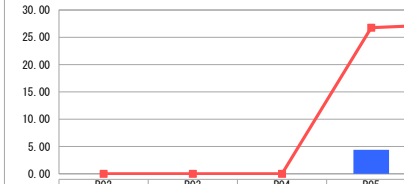


	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	71.67	79.16
平均値	-	-	-	84.73	84.21

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

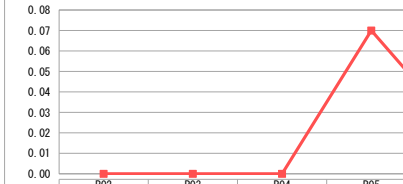
【30.82】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	4.38	8.79
平均値	-	-	-	26.77	27.46

②管渠老朽化率(%)

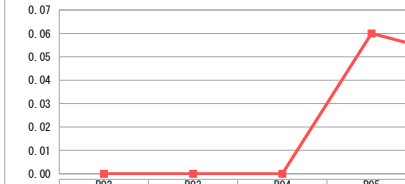
【0.06】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	0.00	0.00
平均値	-	-	-	0.07	0.02

③管渠改善率(%)

【0.15】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	-	-	-	0.00	0.00
平均値	-	-	-	0.06	0.05

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

前年度との比較し、経常収支比率について、減少しました。
併せて、各種計画（ストックマネジメント及び下水道事業経営戦略）の策定による経費増嵩により、前年度と比較し経費回収率は減少し、汚水処理原価は増加しており、結果として一般会計からの基準外繰入金が増加している状況です。
今後は、令和６年度末に策定したストックマネジメント計画に基づき、施設の改築・更新を行うため、費用の増大が見込まれます。これにより、企業債からの借入れが増えるため、企業債残高対事業規模比率の増加が見込まれます。
そのため、令和６年度末に見直しを行った経営戦略を基に料金改定を含めた検討を行う必要があります。
そのほか、必要な点検・補修等の維持管理は継続する必要がありますが、機器の状態を把握し、費用の平準化を図ることに努めます。
処理区域内の人口は、前年度に比べやや減少しましたが、水洗便所設置済人口が微増したため、水洗化率は増加しました。
今後も積極的に加入促進を行い、接続件数の増加に努めます。

2. 老朽化の状況について

管渠について、敷設から25年が経過しており、現時点では大きな異常は発見されていない状況です。そのため、今後も適切な点検を行い、維持管理に努めていきます。
処理場については、和水町下水道ストックマネジメント計画に基づき、費用対効果を踏まえた施設の改築更新に努めていきます。

全体総括

現時点では、経常収支比率は100%を超え、概ね堅調な経営状況ではあるものの、維持管理費の増加や起債償還など、財政的に厳しい状況にあり、施設の設備も更新時期を迎えています。
計画的に施設の更新を進めていくために、令和６年度に策定したストックマネジメント計画に基づき、社会資本整備交付金等の補助金を活用しながら、経営基盤の強化を図ります。
また、和水町下水道事業経営戦略に基づき、特定地域生活排水処理事業と併せて、特定料金体系のあり方を再検討する予定です。